



2023年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

2022年11月11日
株式会社カクヤスグループ
(証券コード：7686)

1. 2023年3月期 第2四半期 ハイライト

1. 2023年3月期 第2四半期 ハイライト

市場環境	<ul style="list-style-type: none">• コロナウイルス感染者の増加が業績に直接的な影響を与える事業環境にあり、引き続き注視が必要。• プラス要因：経済活動の制約緩和、飲食店等の営業も通常運用に回帰。• マイナス要因：インフレ圧力を通じた個人消費の低迷。コロナ第8波の到来。
第2四半期進捗 及び 通期見通し	<ul style="list-style-type: none">• 増収決算。赤字は継続するも赤字幅は縮小。• 想定外のコロナ第7波の影響を受け、第2四半期業績予想を下方修正。• 10月の酒販価格の改定、Go To Eat再開等に伴う収益増加を見込んで、通期業績予想は据え置き。（価格改定、Go To Eat再開等による収益増により、当初上期の業績予想に対する上期実績のマイナスをカバーする想定）
トピックス	<ul style="list-style-type: none">• 「三層物流体制」については今9月で構築完了。• カクヤスの認知度向上のための施策。<ul style="list-style-type: none">✓ 「KYリカー」19店舗の「なんでも酒屋カクヤス」へのブランド変更✓ SNSマーケティングへの注力

1. 2023年3月期 第2四半期 ハイライト

- 前年同期比では、売上高は53,797百万円となり、前年同期比+16,890百万円、+45.8%の大幅増収を達成。営業損失は684百万円。依然として営業赤字ではあるものの、営業赤字幅は大幅に縮小。
- 一方、5月12日の当初業績予想公表時には織り込んでいなかったコロナウイルス第7波による感染者の急増（7月）並びに過去最多の新規感染者更新（8月）の影響に伴う酒販需要の鈍化が当社業績に大きく影響したため、第2四半期累計期間の連結業績予想数値を下回る。

【前年同期比】

(単位：百万円)	2022年3月期 第2四半期累計	2023年3月期 第2四半期累計	前年同期比
売上高	36,906	53,797	+16,890
営業利益	▲2,768	▲ 684	+2,084
経常利益	▲2,357	▲ 688	+1,669
親会社に帰属する 四半期純利益	▲1,898	▲ 780	+1,118

【連結業績予想の修正】

(単位：百万円)	当初公表数値 2022.5.12公表	2023年3月期 第2四半期累計	差異額
売上高	57,688	53,797	▲ 3,891
営業利益	▲ 201	▲ 684	▲ 483
経常利益	▲ 243	▲ 688	▲ 445
親会社に帰属する 四半期純利益	▲ 258	▲ 780	▲ 522

1. 2023年3月期 第2四半期 ハイライト – 月次推移

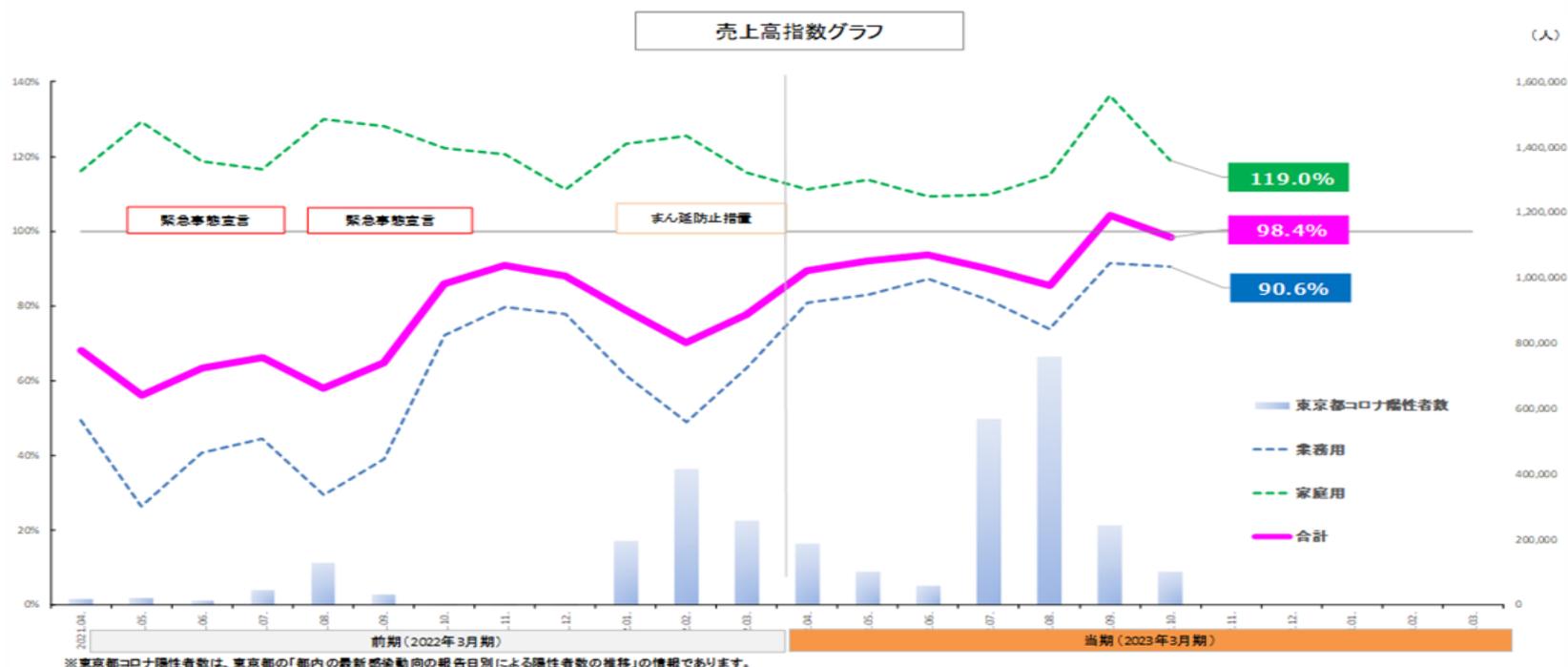
月次売上高の推移

- 新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言及びまん延防止措置等の政府による活動制限はなく、業績は緩やかに回復。7月、8月は第7波の影響により落ち込むも、9月はメーカー値上げ前の駆け込み需要を取り込めたことで、売上高が伸長。足元、10月時点でコロナ前比98.4%まで回復。

株式会社カクヤスの売上速報値

(新型コロナウイルス影響前の2018年4月～2019年3月の売上を100%とした指数)

(カクヤス社_10月)



2. 2023年3月期 第2四半期 決算概要

2. 2023年3月期 第2四半期決算概要 — 連結損益計算書

- 増収決算。赤字決算ではあるものの、赤字幅は大幅に縮小。

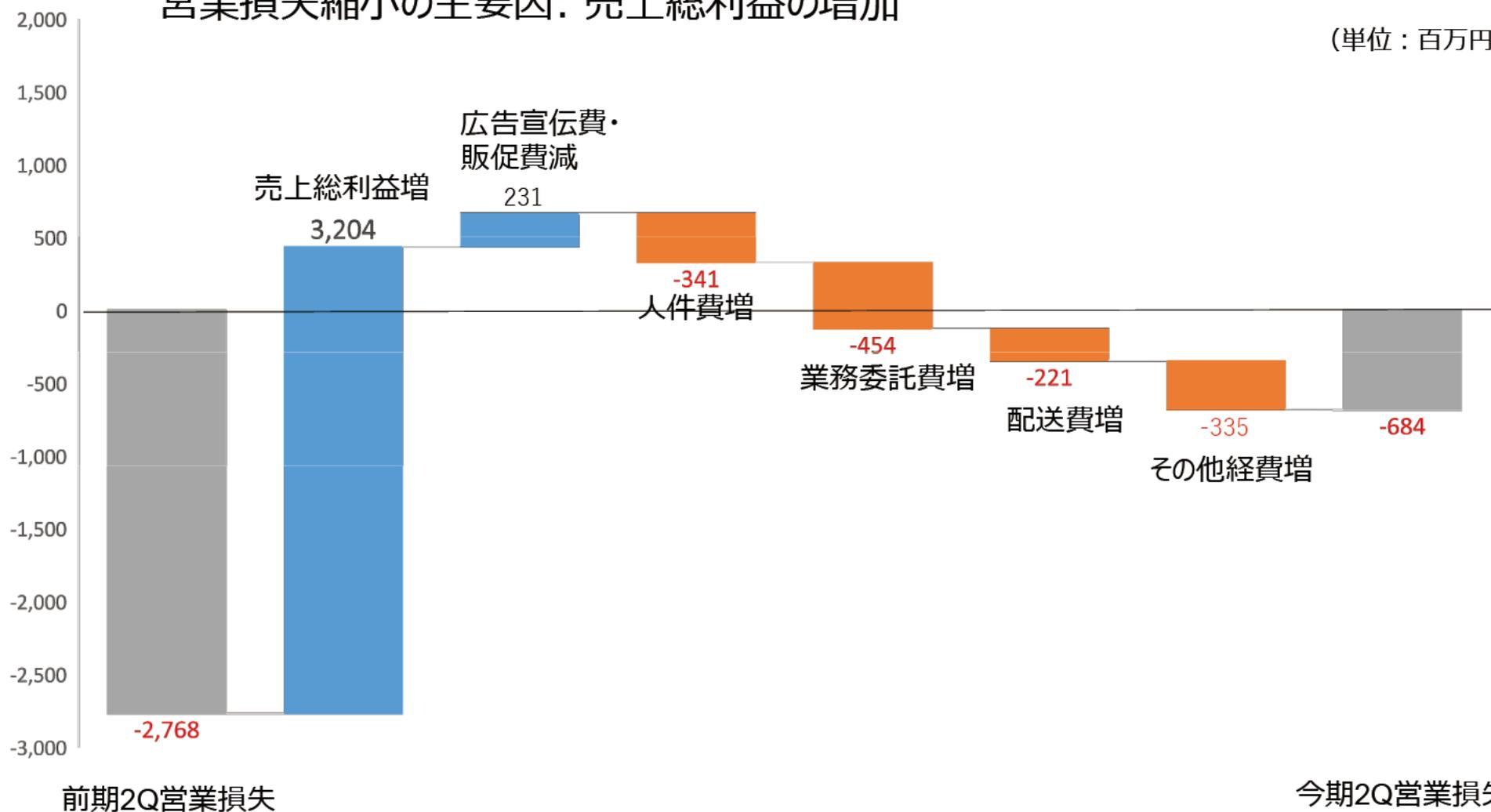
(単位：百万円)

科目名	2022年 3月期 2Q	2023年 3月期 2Q	増減額	増減率
売上高	36,906	53,797	+16,890	+45.8%
売上総利益	7,906 21.4%	11,111 20.7%	+3,204	+40.5%
販売費および 一般管理費	10,675 28.9%	11,796 21.9%	+1,120	+10.5%
営業利益（損失）	▲2,768 -	▲684 -	+2,084	-
経常利益（損失）	▲2,357 -	▲688 -	+1,669	-
親会社株主に帰属する 当期純利益（損失）	▲1,898 -	▲780 -	+1,118	-

2. 2023年3月期 第2四半期決算概要 – 連結営業損益の増減要因

営業損失縮小の主要因：売上総利益の増加

(単位：百万円)



2. 2023年3月期 第2四半期決算概要 – 連結売上高区分

・ 業務用売上が回復。

(単位：百万円)

	2022年 3月期 2Q	2023年 3月期 2Q	増減額	増減率		
				売上高	顧客数	客単価
業務	16,998	34,724	17,726	+104.3%	+32.2%	+54.6%
宅配	10,686	10,371	▲314	▲2.9%	▲5.4%	+2.6%
POS	8,647	7,853	▲794	▲9.2%	▲13.4%	+4.9%
卸	572	847	274	+47.9%	—	—
合計	36,906	53,797	16,890	+45.8%	—	—

▷業務

- ・ 経済活動への制限が解除され、カクヤス社の主要顧客である酒類提供の飲食店等が通常営業に戻ったことを受け、当社グループへの注文量が大幅に増加。
- ・ 10月1日からの酒類価格の値上げを見据えた需要増加により、顧客数・客単価ともに増加。

▷宅配

- ・ 家飲み需要は緊急事態宣言下の前年ほどは伸びず、売上、顧客数は前年同期をやや下回った。

▷POS

- ・ カクヤス社店舗の来店需要は、緊急事態宣言や外出自粛の昨年の状況ほどは伸びず、売上、顧客数は前年同期を下回った。
- ・ 一方、客単価は食材を中心に品揃えを充実させたことで、前年同期をやや上回った。

2. 2023年3月期 第2四半期決算概要 – サービス別売上高構成比

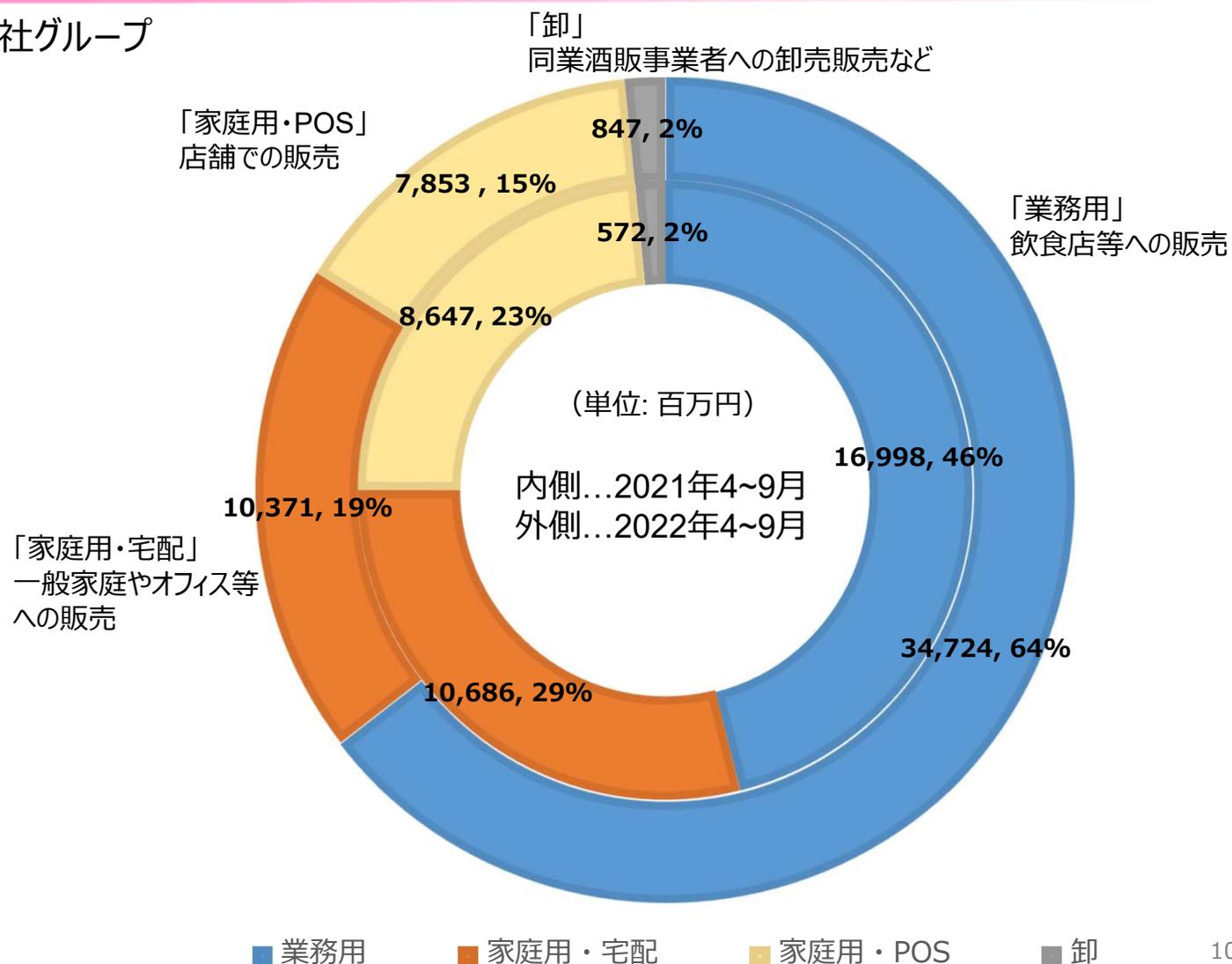
飲食店等向けの「業務用」売上高の変動が当社グループの収益に大きく影響する構造

【金額】（百万円）

	2022/3期2Q	2023/3期2Q
業務用	16,998	34,724
家庭用・宅配	10,686	10,371
家庭用・POS	8,647	7,853
卸	572	847
合計	36,906	53,797

【構成比】

	2022/3期2Q	2023/3期2Q
業務用	46.1%	64.5%
家庭用・宅配	29.0%	19.3%
家庭用・POS	23.4%	14.6%
卸	1.5%	1.6%
合計	100.0%	100.0%



2. 2023年3月期 第2四半期決算概要 – 営業損益以下の変動

(単位：百万円)

	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	増減額	主な増減の内訳
営業損益	▲ 2,768	▲ 684	2,084	
営業外収益	460	37	▲ 422	2022年3月期460百万円…雇用調整助成金など
営業外費用	49	41	▲ 7	支払利息…2022年3月期 25百万円、2023年3月期 29百万円
経常損益	▲ 2,357	▲ 688	1,669	
特別利益	29	7	▲ 21	
特別損失	91	70	▲ 21	減損損失…2022年3月期 90百万円、2023年3月期 65百万円
税金等調整前当期純利益	▲ 2,420	▲ 751	1,669	
法人税、住民税及び事業税	23	48	25	
法人税等調整額	▲ 544	▲ 19	525	2022年3月期…繰延税金資産の計上
当期純利益	▲ 1,898	▲ 780	1,118	
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 1,898	▲ 780	1,118	

2. 2023年3月期 第2四半期決算概要 – 連結貸借対照表

- 売上高の回復、仕入増に伴い、売上債権・商品・仕入債務が増加。

(単位：百万円)

	2022年3月末	2022年9月末	増減		2022年3月末	2022年9月末	増減
流動資産	15,540	18,127	2,586	負債	26,233	29,696	3,462
現預金	2,748	2,377	▲371	仕入債務 *2	11,393	14,612	3,218
売上債権 *1	5,586	7,559	1,972	有利子負債 *3	11,765	11,718	▲46
商品	4,274	4,847	572	その他負債	3,074	3,364	289
その他	2,930	3,343	413				
固定資産	13,000	13,030	30	純資産	2,307	1,462	▲845
有形固定資産	7,160	7,295	134	株主資本	2,229	1,364	▲865
無形固定資産	2,050	1,883	▲166	その他包括利益累計額	77	98	20
投資その他の資産	3,789	3,851	62				
資産合計	28,541	31,158	2,616	負債・純資産合計	28,541	31,158	2,616

*1 売上債権：受取手形及び売掛金

*2 仕入債務：買掛金

*3 有利子負債：短期借入金、長期借入金、リース債務

2. 2023年3月期 第2半期決算概要 – 連結キャッシュフロー計算書

- 仕入債務の増加等により営業キャッシュフローがプラスに転じた。

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減
営業活動によるキャッシュフロー	▲2,115	285	2,401
税金等調整前当期純利益	▲2,420	▲751	1,669
減価償却費、のれん償却費	452	398	▲54
売上債権の増減額	1,238	▲2,011	▲3,249
棚卸資産の増減額	▲417	▲572	▲154
仕入債務の増減額	▲516	3,185	3,701
その他	▲452	37	489
投資活動によるキャッシュフロー	▲496	▲525	▲29
フリーキャッシュフロー	▲2,611	▲240	2,371
財務活動によるキャッシュフロー	2,121	▲131	▲2,253
現金及び現金同等物の増減	▲490	▲371	118
現金及び現金同等物の期首残高	2,525	2,748	223
現金及び現金同等物の期末残高	2,034	2,377	342

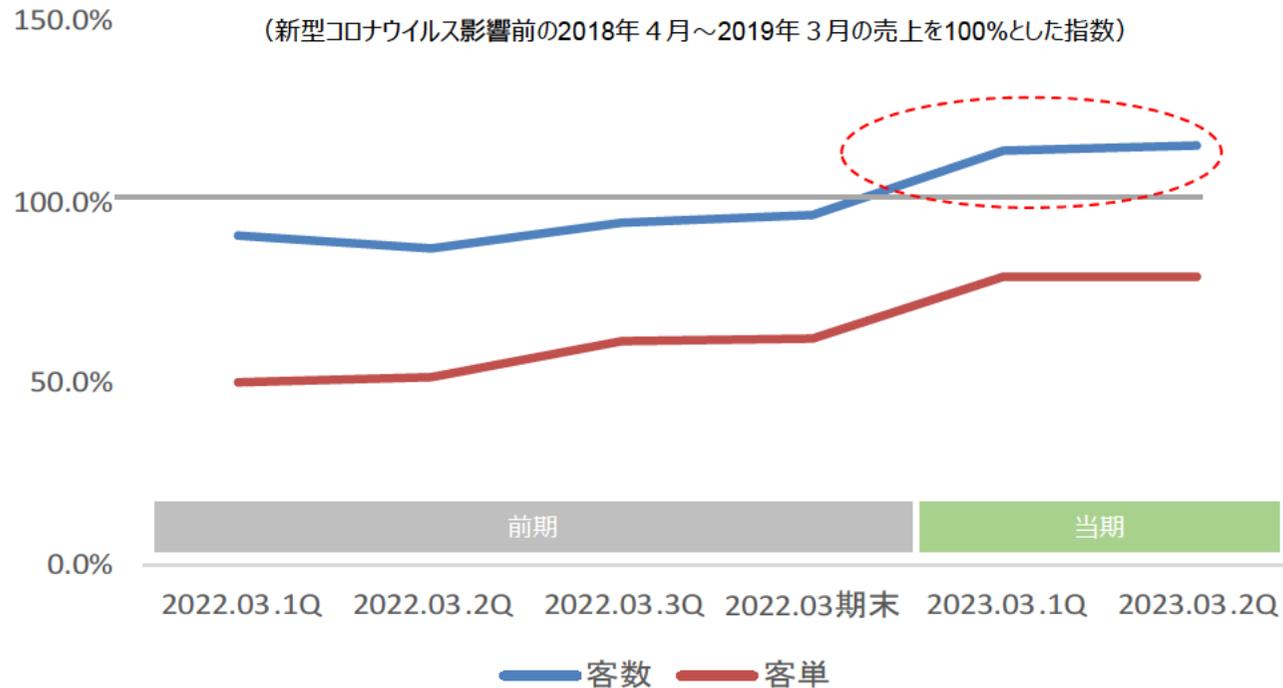
3. 売上区分別概要

3. 売上区分別概要 – 業務用

業務用

(1) 客数・客単価推移

- ▷ 客数については、コロナ前を超える。
客単価については、回復が遅れていたが、徐々に回復。



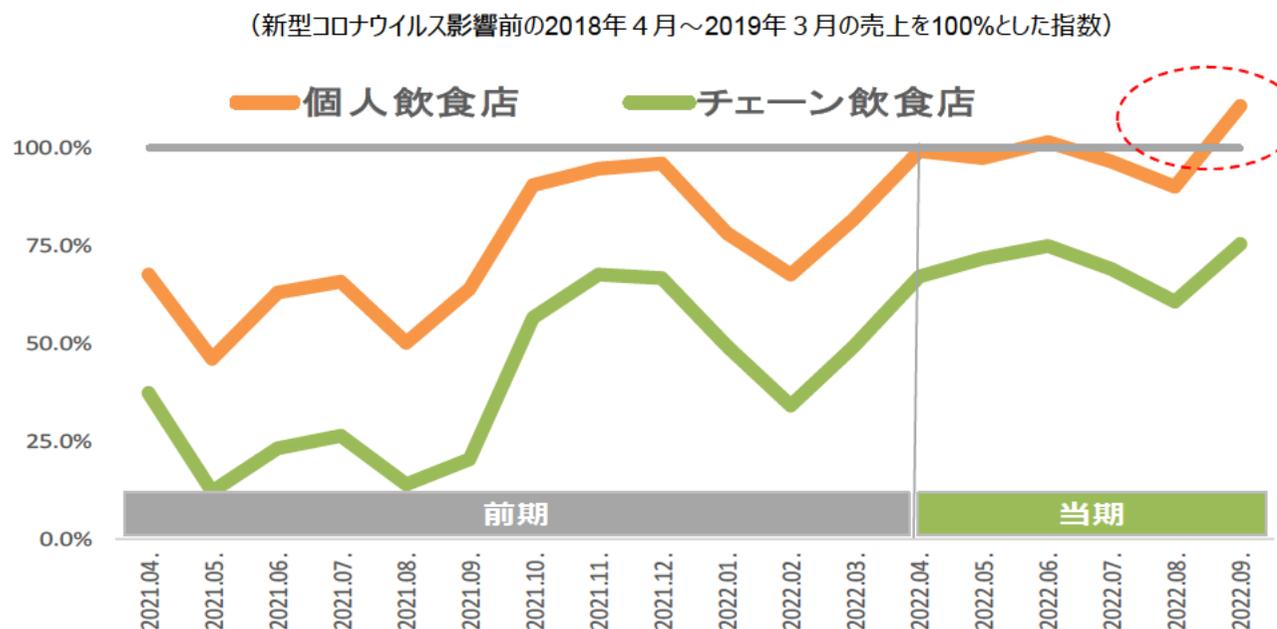
3. 売上区分別概要 – 業務用

業務用

(2) 業態ごとの売上推移

▷ 業態ごとの売上推移については、コロナ禍にサービスの維持・新規獲得に注力したことで、個人飲食店を中心に売上は回復に向う。特に当期に入ってから、個人飲食店はコロナ前を超える売上。

一方、チェーン飲食店では、回復傾向にあるものの、客単価は引き続き大人数（企業）での飲み会の自粛等の影響から、未だコロナ前までには及ばず。



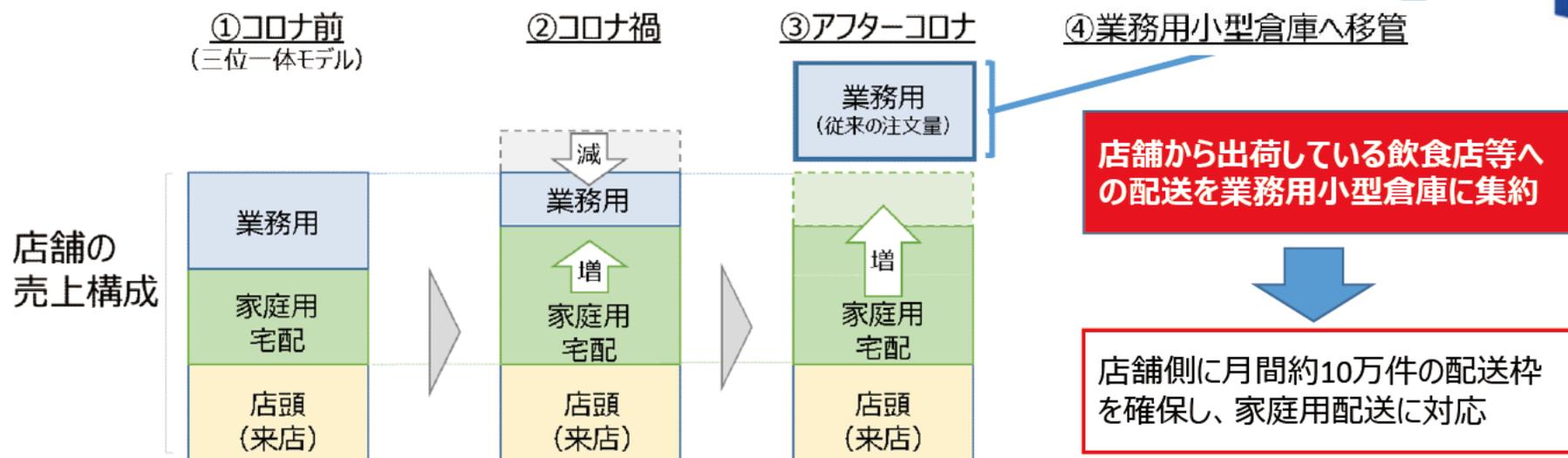
3. 売上区分別概要 – 業務用

業務用

(3) 三層物流体制の完成

カクヤス社

- 目的 : コロナ禍で増加した家庭向け販売の需要にお応えしつつ、アフターコロナを見据え、回復が見込まれる業務用配送にも対応可能なフレキシブルな物流体制を構築すること。
- 取組み : 店舗から出荷している飲食店等への配送を業務用小型倉庫に移管し、店舗側の家庭向け配送枠を月間で約10万件確保する。
- 結果 : 2022年9月末時点で、環八内での体制構築を完了。第7波が収束に向かい、業務用の注文が戻る中、業務用小型倉庫からこれらの需要に対応することができた。一方、家庭用で増加した配送枠数はこれにより維持ができた。



3. 売上区分別概要 – 家庭用

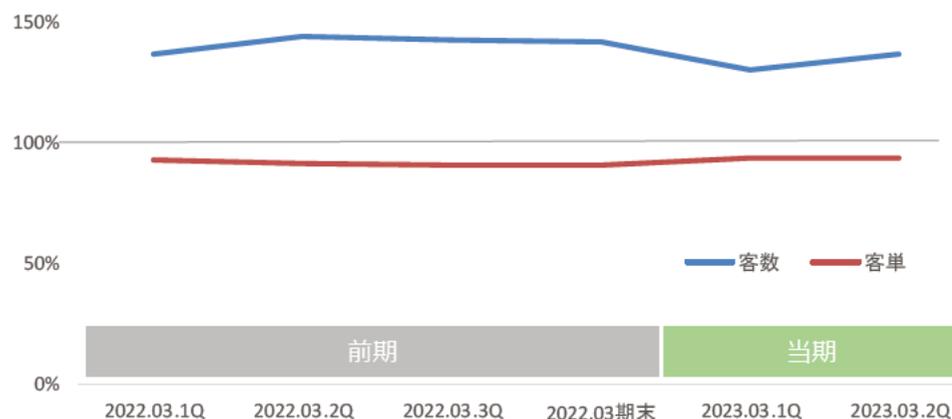
家庭用

(1) 宅配・POS 客数・単価推移

- ▷ 【宅配】 客数は、コロナ禍で取り込んだ新規のネット会員が好調に推移しており、コロナ前を大きく上回る。客単価は、コロナ前と比べ大口の注文（パーティー・納会需要等）が減っていることで、若干コロナ前を下回る。
- ▷ 【POS】 客数は、在宅勤務や外食自粛等の影響から前期までは好調に推移していたものの、当期は政府からの制限はなく外飲み需要が増加したことによりコロナ前の水準を下回る。客単価は、店舗の改装など食品を中心とした品ぞろえを充実させたことで、コロナ前を上回り推移。

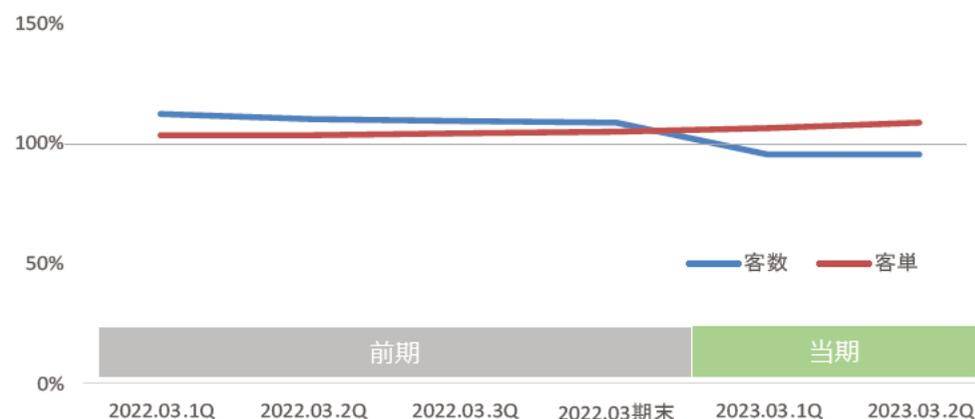
【宅配】 客数・単価推移

(新型コロナウイルス影響前の2018年4月～2019年3月の売上を100%とした指数)



【POS】 客数・単価推移

(新型コロナウイルス影響前の2018年4月～2019年3月の売上を100%とした指数)



3. 売上区分別概要 – 家庭用

家庭用

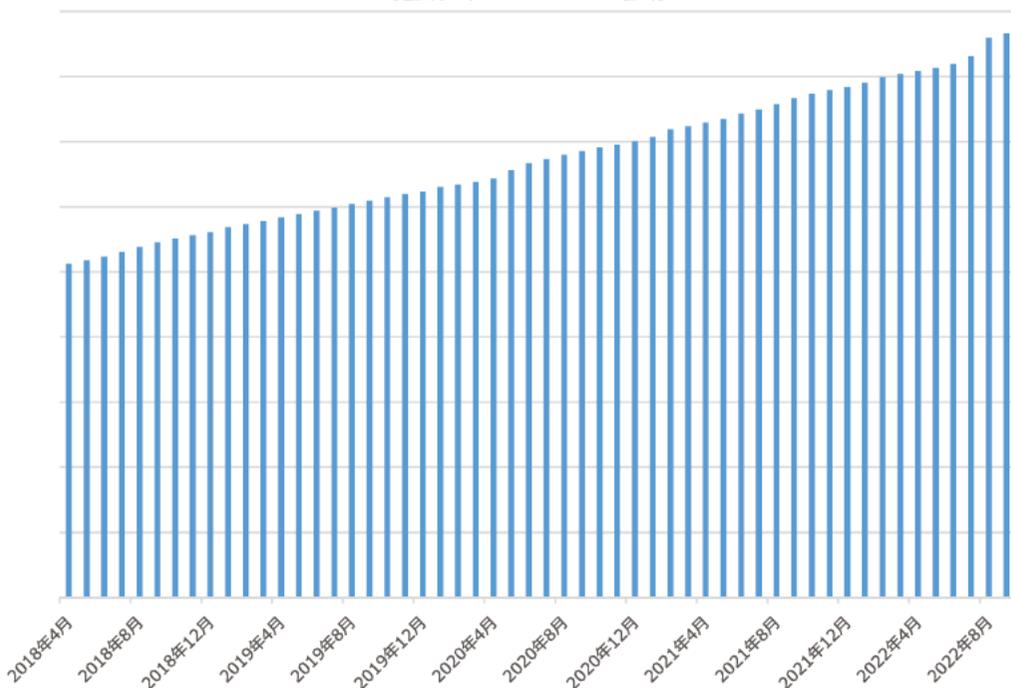
(2) 「カクヤスネットショッピング」の登録者数、アクティブ会員数の推移

カクヤス社

■ 登録者数、アクティブ会員数ともに増加基調。

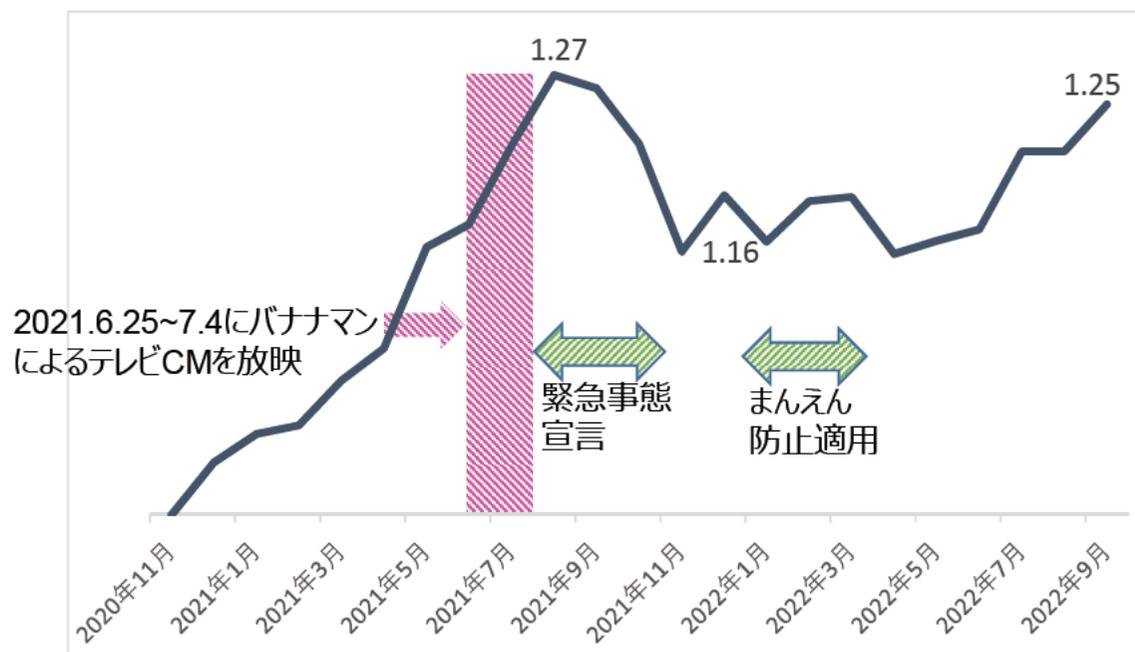
【会員登録者数（累計）の推移】

（会員数は非公表）



【アクティブ会員数の推移】

（2020年10月のアクティブ会員数を1として指数化）



- ✓ アクティブ会員の定義: 当月注文した会員、かつ、当該会員が当月から三か月以内に1回以上注文（例: 2022年9月に注文、かつ、2022年6月~8月に1回以上注文した会員）

3. 売上区分別概要 – 家庭用

家庭用

(3) ブランド認知の強化 - A

カクヤス社

- カクヤスブランドの認知拡大とロイヤルカスタマーの増加を目的に、SNSマーケティングに注力。
- 従来のカクヤスメールマガジンに加えて、新たな販促チャネルとして成長させ、SNSコミュニケーションに慣れている若年層へのリーチを拡大する。

← なんでも酒やカクヤス【公式】@ビール1本から...
3,311 件のツイート

なんでも酒やカクヤス

フォロー

なんでも酒やカクヤス【公式】@ビール1本から最短1時間で無料デリバリー
@kakuyasu_shop

お酒・飲料・食料品・日用品・ペット用品など暮らしに欠かせない商品をお届けしているカクヤスです🍷
東京・神奈川・埼玉・大阪の指定エリア内は1本からデリバリー無料🚚
欲しいモノを欲しい時に欲しい分だけお届けしたい！便利で豊かな暮らしをサポートする情報を紹介していきます！

お問合せは👉bit.ly/gLiHtC

📍 東京都北区豊島2丁目 🌐 kakuyasu.co.jp
📅 2009年10月からTwitterを利用しています

3,679 フォロー中 2.2万 フォロワー

9,400

22,000

2022年5月 2022年6月 2022年7月 2022年8月 2022年9月

4か月でTwitterのフォロワー数が2倍以上
「親しみやすさ」をキーワードに各種キャンペーンと連動

なんでも酒やカクヤス【公式】@ビール1本から最短1時間で無料デ...
@kakuyasu_shop

カクヤスのトラック（通称 #カクトラ）は相当な台数があるんだけど、ゼーんぶ同じ「365」ナンバーです。
全部そろってるの、結構すごくない?????

午後3:03 · 2022年10月4日 · SocialDog for Twitter

なんでも酒やカクヤス【公式】@ビール1本から... @kak... - 10月24日

わん！わんワンワン、わわわんわん！
ニヤ？ニヤニヤニヤニヤン。ニヤにやニヤン！
ワンワンワンワン？
うにやー。
ワン&ニヤン！

ペット用品もピンポン!

お酒だけじゃない! カクヤス 送料無料!

3. 売上区分別概要 – 家庭用

家庭用

(3) ブランド認知の強化 - B

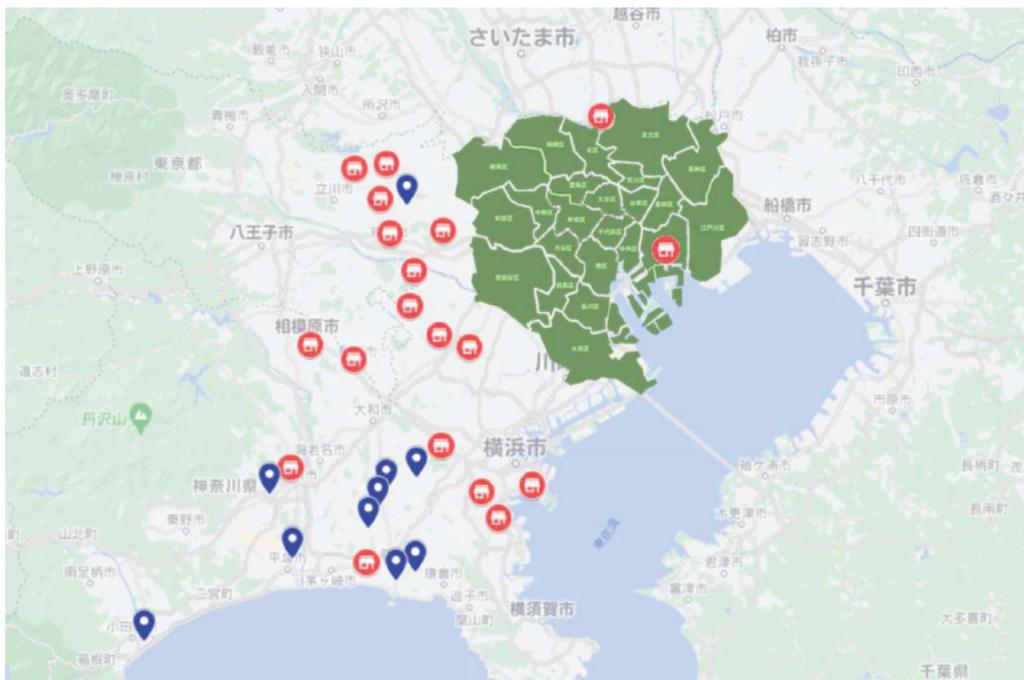
カクヤス社

- 神奈川県、東京都、埼玉県の郊外で来店型の酒類専門店を展開する「KYリカー」を「なんでも酒やカクヤス」に順次ブランド変更。
- 認知度が高いピンクの看板とカクヤスブランドを前面に出すことで集客効果を狙い、当社グループの強みの宅配の利用向上にも繋げる。

▷ ブランド変更を随時実施中

 ...ブランド変更済み

 ...KYリカー



【ブランド変更例】



【KYリカー
港北店】



【カクヤス港北店】



【KYリカー稲城店】



【カクヤス稲城店】

3. 売上区分別概要 – 家庭用

家庭用

(3) ブランド認知の強化 - B

ダンガミ・サンノー社

(1) 家庭用販売の強化

- 6月に長崎に「なんでも酒やカクヤス 思案橋店」を新規オープン。
9月以降、福岡の「酒のガリバー」を順次「なんでも酒やカクヤス」に看板変更を実施。
「カクヤス」の認知度を活かして家庭用販売の強化を図る。
- カクヤス社との業務統合
9月～カクヤス社コールセンターでの受注開始



4. 通期業績予想と配当方針について

4. 2023年3月期 通期業績予想

- 通期連結業績予想については、コロナ感染者の減少に加え、本年10月からの価格改定、Go To Eatの再開等に伴う収益の増加が期待できることから、通期業績予想は5月12日の公表数値を据え置く。
- 下期は、当初の上期業績予想数値と下方修正後の同業績予想数値差を取り返す必要があるが、上記価格改定とGo To Eatの再開等による収益増でカバーできると想定。
- 2023年3月期は、前期比で大幅増収とともに、黒字転換を見込む。

(単位：百万円)	(A)	(B)	(B) - (A)	(B) / (A) - 1
	2022年3月期 連結業績	2023年3月期 連結業績予想	増減額	増減率
売上高	85,514	120,741	+35,226	41.2%
営業利益	▲3,328	906	+4,234	n.a.
経常利益	▲2,898	827	+3,725	n.a.
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲2,808	592	+3,400	n.a.

4. 配当方針について

【2023年3月期】

中間配当金 : 1株当たり10.00円

2023年3月期第2四半期（累計）の連結業績は、新型コロナウイルス感染症第7波の影響を受けたことにより、四半期純損失を計上しましたが、本年10月の酒類販売価格改定やGo To Eatの再開等に伴う収益の増加が期待できることから、通期では利益を確保できるものと見込んでおります。

つきましては、当社の配当方針を踏まえ、
2023年3月期の中間配当は、1株当たり配当金を10円00銭とすることと致しました。

今後も継続的かつ安定的な配当につとめてまいります。

5. 今後の課題と取り組み

5. 今後の課題と取り組み

事業遂行上の課題	
新型コロナウイルス感染症の流行	本年8月にピークアウトを迎え感染者の減少が続いていたものの、10月第3週から次第に増加に転じており、繁忙期の第3四半期に影響が出ないか注視を継続。
品不足	高級シャンパンなど一部高額商品の商品確保が課題になりますが、国内最大級の商品調達力と自社流通センターでの在庫確保で商品ラインナップの維持を継続。
人手不足	配達人員の確保に関し、配送事業者との獲得競争が激しくなっているが、多様な働き方の提供や業務内容に見合う報酬体系を整備して配達人材の確保に努めている。
認知拡大	KYリカーからカクヤスへのブランド変更。SNSマーケティングへの注力を継続。
資本政策の課題	
資本力強化	資本力強化のための施策を検討中。
株式流動性	流動性向上の施策に取り組み中。
ESG、ガバナンス上の課題	
気候変動対応	グループ内でサステナビリティ・準備プロジェクトを立ち上げ、TCFD提言に基づく情報開示に向け取り組みを開始。
コーポレートガバナンス	改訂版CGコードに従い、企業の中核人材における多様性確保、サステナビリティ課題への取り組みを行う。

APPENDIX

■ 拠点数

(カクヤスグループ) 拠点一覧



	2022.03期	2023.03期			
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
(1) 業務用拠点					
(株) カクヤス					
業務用センター	9	9	9		
業務用店舗 (kakuyasu class)	5	5	5		
業務用小型倉庫 ※1	22	24	25		
合計	36	38	39	0	0
ダンガミ・サンノー (株)					
業務用センター	2	2	2		
業務用店舗 (酒のガリバー等) ※2	11	11	6		
業務用小型倉庫	1	1	1		
合計	14	14	9	0	0
サンノー (株)					
業務用店舗 (リカーズABC)	1	-	-		
(2) 家庭用拠点					
(株) カクヤス					
WEBセンター・社内物流センター (平和島)	2	2	2		
店舗1. (なんでも酒やカクヤス) ※3	137	139	154		
店舗2. (KYリカー) ※3	29	25	10		
店舗3. (KAKUYASU SELECT)	2	2	2		
店舗4. (CORK)	1	1	1		
小型倉庫	19	18	19		
合計	190	187	188	0	0
ダンガミ・サンノー (株)					
店舗1. (なんでも酒やカクヤス) ※2	-	-	5		
合計	-	-	5	0	0
(3) その他の拠点					
明和物産 (株)					
小型倉庫	8	8	8		

※1. (株) カクヤスの業務用小型倉庫は2021年3月期は14店舗であり、2023年3月期の9月末現在は25店舗となり、2021年3月期と比較し11店舗増加しております。

※2. ダンガミ・サンノー (株) の業務用店舗のうち5店舗は「なんでも酒やカクヤス」のブランド変更により家庭用拠点へ移動しております。

※3. (株) カクヤスの店舗2. (KYリカー) の19店舗はブランド変更により店舗1. (なんでも酒やカクヤス) へ移動しております。

■ 年次決算数値の推移

(単位: 百万円)

	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期予
売上高	110,044	108,715	108,562	80,226	85,514	120,741
売上総利益	20,747	21,562	21,514	16,850	18,225	-
営業利益	927	1,779	1,259	▲ 2,602	▲ 3,328	906
経常利益	1,071	1,806	1,259	▲ 1,728	▲ 2,898	827
税金等調整前当期純利益	642	1,282	892	▲ 1,888	▲ 3,100	-
親会社株主に帰属する当期純利益	434	745	513	▲ 1,601	▲ 2,808	592
売上債権	9,078	8,762	6,843	4,745	5,586	
棚卸資産	4,202	4,215	4,290	3,610	4,274	
仕入債務	14,251	13,727	12,569	10,079	11,393	
現預金	2,347	1,840	3,489	2,525	2,748	
有利子負債	5,879	6,462	7,214	9,983	11,763	
純資産	4,315	4,682	5,162	3,212	2,307	
総資産	28,551	28,920	28,472	26,994	28,541	
営業キャッシュフロー	380	1,975	1,945	▲ 1,634	▲ 2,442	
投資キャッシュフロー	▲ 3,704	▲ 1,700	▲ 1,195	▲ 1,385	▲ 1,056	
財務キャッシュフロー	2,338	1,127	899	2,055	3,723	



注意事項

本資料は当社についての情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却等の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行っていただくようお願いいたします。

資料の内容については、現在入手可能な情報から説明しておりますが、事業環境が大きく変化することも考えられます。

従いまして、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって大きく異なる結果となりうることを、あらかじめご承知おきください。

お問い合わせ先

株式会社カクヤスグループ
グループ経営管理部

ir@kakuyasu-group.co.jp

<https://www.kakuyasu-group.co.jp/>